

公立大学法人福岡県立大学

I 全体評価

平成18年度に法人化した公立大学法人福岡県立大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

福岡県立大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを使命としている。

令和5年度で6年間の第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）が終了したことに伴い、当該中期目標期間における中期目標の達成状況の調査・分析を行い、これらの結果を考慮して当該中期目標の期間における業務の実績の全体について総合的な評定をして、認証評価機関による評価結果も踏まえ、評価を行った。

評価の結果、中期目標項目6項目中1項目（地域貢献及び国際交流）について「達成状況が非常に優れている」、5項目（教育、研究、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「達成状況が良好である」と評定した。

福岡県立大学は、「学生ファースト」の理念を掲げる公立大学として、専門的職業人としての能力の育成はもとより、社会の変化に対応できる潜在能力や汎用力を身に付けるための全学横断型教育プログラムを充実させた。また、不登校・ひきこもりサポートセンターの運営や看護師の特定行為研修の実施など地域の課題解決に貢献する活動を積極的に展開し、成果をあげた。第3期中期目標期間中は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたが、遠隔授業も柔軟に組み合わせて学生の学修機会を確保し、またシミュレーションルーム等を整備し学内実習を充実させるとともに、eラーニングやオンラインによる国際交流も進めるなど、教育研究の維持向上に取り組んだ。

特に、不登校・ひきこもりサポートセンターでの相談対応や学生の子どもサポート活動、学生ボランティアによる学習支援など大学が一体となった取組に加え、不登校児童生徒の社会的自立支援に向けた、大学と学校教育現場とのネットワーク構築などの顕著な成果をあげた点はきわめて優れている。

また、令和4年度に受審した認証評価においては、「福岡県立大学は、大学教育質保証・評価センターが定める大学評価基準を満たしている」と評価されている。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡県立大学の中期目標期間の業務実績評価については、全体としては達成状況が良好であると認められる。

少子高齢化の進行、地域の繋がり希薄化や価値観の多様化により、地域住民が抱える課題や福祉ニーズが複雑化・複合化している状況の中、保健・医療・福祉を中心とした幅広い分野で、地域づくりや社会づくりのため中核となって活躍することができる人材の育成や、地域における知の拠点としての地域と連携した取組が、ますます重要となっている。

18歳人口が減少する中、公立大学は一層の責任感を持って地域社会の発展に貢献できる人材の育成に取り組む必要がある。令和6年度からの第4期中期目標期間においては、公立大学法人福岡県立大学が、理事長のリーダーシップの下、内部質保証体制を機能させながら、全学横断型教育プログラムや地域貢献活動をはじめとする特色ある取組の更なる実質化・高度化を実現することで、地域社会の中核となって活躍する人材を育成し、社会から高く評価される大学となることを期待する。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

| | |
|----|--------------------|
| 評価 | 4：中期目標の達成状況が良好である。 |
|----|--------------------|

教育については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- (1) 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成
 - ・福祉社会における多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成を目指すなど、特色ある教育を展開し、保健・医療・福祉の各分野の専門的知識と他の専門職との協働について体系的に学ぶ「多職種連携プログラム」や「データサイエンス（リテラシー）学修証明書」の交付を開始した。
 - ・教養教育を充実させるため、導入教育科目の改善を実施、教養演習テキストを改訂するとともに、コロナ禍におけるオンラインによる遠隔授業や英語の習熟度別クラスの編成により、学習の基盤づくりを強化した。
 - ・人間社会学部において、全学横断型教育プログラムの履修科目を充実させ、履修要件を満たした学生に学修証明書を交付したほか、令和4年度に高等学

校教諭一種免許状（情報）の教職課程を新たに設置した。

- ・看護学部において、看護技術を強化するため、履修科目の充実やOSCE（客観的臨床能力試験）の実施、ケアリング・アイランド大学コンソーシアムでの共同授業を実施した。また、実習教育を充実させるため、学内の演習用施設を整備・活用した。
- ・看護師、保健師、精神保健福祉士の各種国家試験合格率について、高水準を維持した。

(2) 高度専門職業人の人材育成

- ・大学院生を対象とした満足度調査や座談会を実施し、学生の意見を積極的に取り入れた。また、大学院教育の充実に向けて、シラバス様式の全面改訂やメディア授業科目の設置を推進し、各カリキュラム・科目の見直し・改善を継続して行った。

(3) 教育活動の活性化

- ・教員を対象としたセミナーや授業参観ウィークの実施等、ファカルティ・ディベロップメントの推進を通して、アクティブ・ラーニングを充実させたほか、アセスメント・プランの指標に基づき、学科ごとに「学位プログラムDプレビュー」を作成した。

(4) アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保

- ・オンラインと対面によるオープンキャンパスや個別相談の開催、高大連携の取組など、意欲ある学生の確保のために様々な方策を講じた。
- ・多様な入学者選抜試験の実施とその検証・改善を実施し、社会的養護等を必要とする者を対象とする学校推薦型選抜試験を導入した。

(5) 学生の学修支援と生活支援

- ・コロナ禍においてeラーニングシステムを積極的に活用し、eラーニングコース開設数を大幅に増加させたほか、学修、学生支援体制を充実させるため、学生支援の窓口を一本化するための「学生総合支援センター」を開設した。
- ・寄附金を活用した特別奨学金制度を新設し、経済的理由により修学が困難な学生を支援した。

(6) キャリア支援

- ・キャリアマネジメント関連科目やインターンシップ実施体制の充実等、キャリア教育を強化するとともに、就職支援システムを導入し学生が利用しやすい環境を構築するなど、教職協働体制の下、きめ細かなキャリア支援を実施し、就職率について高水準を維持した。

2 研究

| | |
|----|--------------------|
| 評価 | 4：中期目標の達成状況が良好である。 |
|----|--------------------|

研究については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、

達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・附属研究所において組織体制を見直し、学際的研究プロジェクトを推進するとともに、地元自治体と連携協定を締結し、地域の課題解決に向けた共同研究を行った。令和5年度からは、福岡県国民健康保険団体連合会との共同研究事業による国保データベースシステムの研究を開始した。
- ・科学研究費補助金等の応募件数、獲得件数ともに目標を上回っており、外部研究資金の獲得に努めた。

3 地域貢献及び国際交流

| | |
|----|-------------------------|
| 評価 | 5 : 中期目標の達成状況が非常に優れている。 |
|----|-------------------------|

地域貢献及び国際交流については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施するとともに、特に優れた実績を上げている実施事項や福岡県の行政課題の解決に貢献する取組、中期計画に掲げる実施内容以外にも地域貢献に関する積極的な取組が認められることから、達成状況が非常に優れていると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・看護師・社会福祉士等の資格・免許保持者等を対象とした研修会を継続して実施するとともに、看護師の特定行為研修事業を開始するなど、地域ニーズに対応したリカレント教育を実施した。
- ・不登校・ひきこもりサポートセンターにおいて、不登校やその支援に関する相談、キャンパス・スクール事業等を実施したことに加え、不登校児童生徒の社会的自立支援に向けて大学と学校教育現場とのネットワークを構築し、新たな不登校を減少させるための不登校情報の分析支援の取組を実施するなど、不登校・ひきこもり対策に優れた実績を上げた。
また、学生が、不登校・ひきこもりサポートセンターや地域の補充学習の場に学習ボランティアとして参加できるよう、学生に対し市町村からのボランティア依頼情報を提供するなど、学生の社会貢献・ボランティア活動を積極的に支援した。
- ・海外の交流協定締結校との教員交流や短期研修プログラム（派遣）などを実施するとともに、コロナ禍においても国際交流を進めるべく、協定校とオンライン交流イベントを行った。
- ・学生・教職員と地域の教育関係者等を対象に、新型コロナウイルスの大学拠点接種を行ったほか、大学体育館を新型コロナウイルスワクチン広域接種会場として県に貸し出した。

4 業務運営の改善及び効率化

| | |
|----|--------------------|
| 評価 | 4：中期目標の達成状況が良好である。 |
|----|--------------------|

業務運営の改善及び効率化については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・看護師を対象とした特定行為研修を実施するための研修室の整備や、学内実習を充実させるためのシミュレーションルームを確保した。また、限られた学内資源を有効活用するため、各種証明窓口、就職相談窓口、奨学金受付等窓口を部署移設により一本化した。
- ・業務の効率化を推進するため、インターネット出願システム及び電子シラバスを導入するとともに、入学検定料の収納業務、遠隔授業導入に際してのITに関する相談対応業務等の外部委託を行った。

5 財務内容の改善

| | |
|----|--------------------|
| 評価 | 4：中期目標の達成状況が良好である。 |
|----|--------------------|

財務内容の改善については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部資金の積極的な確保を支援するため、科学研究助成事業に関する研修会の実施後に、当該研修会の動画を配信して教員がいつでも応募方法等を確認できる体制を作った。

6 自己点検・評価及び情報の提供

| | |
|----|--------------------|
| 評価 | 4：中期目標の達成状況が良好である。 |
|----|--------------------|

自己点検・評価及び情報の提供については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・内部質保証システムを維持・向上させるため、「学生ファースト」の理念の下、内部質保証体制を整備し、学生の意見を把握するなどして、教育の改善を進めるとともに、全学での取組実施を目指し、大学改革セミナーの開催を通してPDCAサイクルの向上を周知した。
- ・大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開した。